

脱水症によるシックデイの薬物療法に介入した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、脱水症によるシックデイの薬物療法に介入することで、安全な薬物療法に寄与できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶肝細胞癌にて外来で加療中、脱水症にて緊急入院となった患者。
入院時 eGFR19.9mL/min/1.73m²（前回 eGFR108.3mL/min/1.73m²）

【持参薬（一部抜粋）】

グラクティブ錠 50mg 1回1錠 1日1回 朝食後



Hさん

腎機能が高度に低下しており、グラクティブ錠は減量が必要だが※、脱水症があり、食事量が低下しているため、血糖コントロールが不安定となる可能性がありそうだ。



薬剤師

Hさんのお薬で相談があります。
血糖降下薬であるグラクティブ錠を内服されておりますが、脱水症で腎機能が高度に低下しており、食事量も低下しているようですので、低血糖が懸念されます。
状態が改善するまで、グラクティブ錠を中止して、血糖値に応じてインスリンで血糖コントロールを行うのはいかがでしょうか。



医師

そうですね。一旦グラクティブ錠は中止にして、血糖値に応じてインスリンを投与する指示を出しておきます。



ありがとうございます。状態が改善した際には、グラクティブ錠を再開して頂くようお願いいたします。

入院中、インスリンの投与なく血糖値は正常値を推移し、低血糖の発現なく経過した。
腎機能は eGFR102.6 mL/min/1.73m² に回復し、退院時よりグラクティブ錠 50mg が再開された。

脱水症によるシックデイの薬物療法に介入することで、良好な血糖コントロールを保ち、安全な薬物療法に寄与できた。

※グラクティブ錠添付文書を参照